

知って、 食べよう 地元産の食材。

今月の特集のテーマは、地産地消。
垂水市が進める地産地消の取組をご紹介します！



今回特集では、
地元で活躍する
農業者6名をご紹介します。
(15ページでご紹介！)

撮影協力いただいた
「irodori野菜もり畑」

父

娘

◀ 代表はこっち

PHOTO
場所：上野台地
協力：irodori 野菜もり畑

垂水市が進める「食育・地産地消」の考え方 第2次垂水市食育・地産地消推進計画

◆計画でめざす姿

食をとおして、豊かな心と健全な身体を育み、
食でつながるひとづくり・まちづくり

◆4つの基本目標

- ①食をとおして豊かな心と健全な身体をつくる
- ②食をとおして家族や地域とつながる
- ③自然の恵みに感謝して食を楽しむ
- ④食の安全性を理解する

※基本目標達成のため、14の推進施策があり、
③の推進施策に地産地消の推進があります。

地産地消 の推進

- 地元の農林水産物のPR
- 生産者と市民の相互理解
- 安心安全な農林水産物の供給
- 消費拡大 など

◆地産地消の3つの目標値 (28年度設定)

①意識して地場産物を購入する人の割合

目標値は26年度「食育地産地消アンケート」(農林課調査)
より定めたもので、次回調査は、31年度に実施予定です。

目標値 **85%** 現状値 **75%**

②かごしま地産地消推進店の登録数(垂水市)

28年度当初は4店舗でしたが、計画推進に伴い、29年度
現在9店舗となり、目標値10店舗に近づいています。

目標値 **10店** 現状値 **9店**

③学校給食における地場産物の利用割合

28年度当初は67%でしたが、計画推進に伴い、29年度現
在68%となり、目標値70%に近づいています。

目標値 **70%** 現状値 **68%**
(垂水産 40%以上) (垂水産 35%)

地産地消とは

地域で生産されたものを、
その地域で消費する「地産地
消」は、「食」を考える上で、
身近な言葉となりました。特
に最近では、消費者の健康志
向や安全性への意識、生産者
の販売の多様化が進み、消費
者と生産者を結ぶ地産地消へ
の取組が各地で行われています。
農林水産省では、地域の
地産地消の中核となる人材を
「地産地消の仕事人」として募
集・選定する取組や、「フード・
アクション・ニッポン」として、
日本の食を次世代に残し、消
費拡大の取組を進めています。

垂水市の取組

消費者と生産者の距離が近づく
ことで、食材の安全性を確認
でき、互いの信頼へとつなが
ります。三つ目は「地域農業
の発展」、四つ目は「学校給食
での地元産物の活用」です。
子どもたちに「食」への感謝
の気持ちが高まります。

地産地消の効果

地産地消には、4つの効果
があります。一つ目は「新鮮
な素材を味わえること」、二つ
目は「安心・安全」です。消

地産地消を進める上で、「食」
に関する知識を育てることや、
地元産物の認知度および購買
意識の向上が必要となります。
そこで垂水市では、食育・地
産地消の推進をはかる全体的
な取組として、平成28年度か
ら平成32年度までの5年間で
計画期間と定める「第2次垂
水市食育・地産地消推進計画」
を策定しました。今月号では、
そんな農業分野における地産
地消の取組についてご紹介い
たします。